

「連合2019平和行動 in 沖縄」派遣団報告

米軍基地の負担の重さを学び、恒久平和の実現に向け平和運動の推進を誓う ～連合平和オキナワ集會に、全国から1,274名が結集～

今年もまた、6月23日（日）沖縄は「慰霊の日」を迎え、語り継ぐ戦争の実相と運動の継続で恒久平和の実現を目指し、「連合2019平和オキナワ集會」が豊見城市沖縄空手会館において全国各地より1274名の多くの仲間が結集し開催されました。連合福島からは、石川地区連合の大竹副議長を団長に6名で参加しました。



連合2019平和オキナワ集會の様子

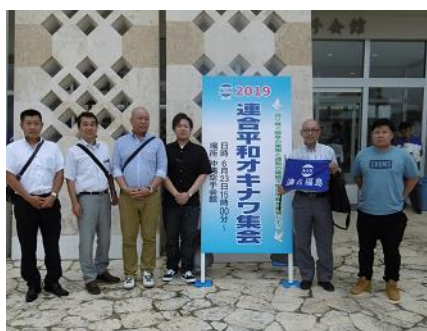
多くの人を巻き添えにした地上戦から74年、現在は軍機の爆音相次ぐ事故、安心・安全な生活が脅かされている沖縄。初めて沖縄の地に立ち、沖縄戦で亡くなられた人々に心から哀悼の意を捧げ、世界平和を願い「米軍基地問題



主催者挨拶 連合相原事務局長

は日本全体の問題として解決していかなければならない」と思いを馳せた「連合2019平和行動 in 沖縄」でした。

集會式典では、基調講演として「他国地位協定調査について」のテーマで、ドイツ・イタリア・ベルギー・イギリスの調査結果について話があり、他国では協定の改定や新たな協定の締結を実現しておりました。集會主催者代表挨拶で連合相原事務局長が強く触れておりましたが、日本の地位協定の抜本的な見直しを求めていく必要性を改めて認識しました。最後に、沖縄戦の悲惨さ、国土面積の0.6%しかない沖縄に米軍基地・施設の70%が集中している米軍基地の負担の重さを学び、恒久平和の実現に向け平和運動を推進していくこと誓い合い、式典を終了しました。



平和集會に参加した
連合福島派遣団の皆さん

翌日は、ピースフィールドウォークとして、遠くから広大な嘉手納基地、平和記念公園やひめゆりの塔、海軍司令部壕など訪れ戦争の悲惨さを改めて肌で感じました。そして、全国各地から集まった仲間たちと一緒に国際通りにてデモ行進を行い、恒久平和を訴えました。

平和集會参加者の皆さんはじめ、この悲惨な出来事を語り伝えていくことで、平和運動がさらに広がっていくことを願い帰路につきました。

（記：会津地区連合事務局長 田中秋広）



ピースフィールドウォークに参加した連合福島派遣団の皆さん